

早稲田大学 理工学部 工業経営学科

早稲田大学理工学部は、大隈侯の銅像や大隈講堂のある早稲田のメイン・キャンパスから新宿方向に徒歩約15分の明治通り沿いに位置し、近くには学習院女子部や戸山高校などがあります。全13学科、専任教員約240名、学部学生約7,000名、大学院学生約1,500名という大規模な学部の一翼を担う工業経営学科は経営工学分野の学科としてはわが国ではじめて昭和10年に開設され、長い歴史と伝統をもっています。発足当時は文部省が独立の学科として認めなかったため、機械・電気・化学・建築の各学科の工業経営分科としてスタートしたということです。その後、昭和18年に工業経営学科の独立が認可され、その中に機械・電気等の4分科を設置し、昭和24年の新制大学発足に伴い分科を廃止し現行の体制になりました。工業経営学科は、理工学部13学科のなかではぼまん中の8番目に創設されています。

工業経営学科は教員14名、助手5名に対して学部学生定員1学年150名、大学院生総数約80名からなっています。このうち女子の数は1学年当り5~10人という所で5%程度です。当学科は、終戦直後に着任され、当学科および経営工学の発展とともに歩んでこられた先生方の定年の時期にさしかかり、いわば世代交替期にあり、年令的にも内容的にも変革の時にあります。

カリキュラム面では機械・電気等の固有技術の基礎を理解した上で経営・管理を学ぶというのが従来のカリキュラムの基本であり、現在のカリキュラムにもこのような「伝統的」な色彩が残っており固有技術に関連する科目が必修・選択ともに相当数設置されています。固有技術の様変わりへの対応と、数理的分析手法や急速な発展をとげつつある情報関連分野の充実ということでカリキュラムの改訂を検討中であり、近い将来カリキュラム内容が刷新される予定です。

カリキュラム刷新を検討中なので選択科目は省きますが、当学科の専門必修科目は現在のところ次の通りです。(1年生)工業経営総論、電子計算演習;(2年生)基礎情報数理、数学E(微分方程式と函数論)、数理統計学、図学及製図、機械理論、化学理論、経営経済学、簿

記及原価計算演習、工業心理学、作業測定実験;(3年生)OR、電気工学、生産管理学、管理工学実験;(4年生)工場運営演習、卒業研究

教員は大学院の専門分野にしたがって生産管理学、生産工学、プラント・エンジニアリング、労務管理学、産業公害、そしてORと6つの柱に分れています。オペレーションズ・リサーチ部門には5研究室が属します。

春日井研は、「在庫の春日井」と自他ともに認める春日井博教授のもとで生産・在庫管理、物流システムの研究を中心として、その他、数理計画や待ち行列など広くORの理論・応用に関する研究をすすめています。

池沢研はデミング賞に輝く品質管理学会会長池沢辰夫教授のもとで、要求品質展開、品質情報、新製品開発を中心に広く品質管理の研究をすすめ「実務に役立つ理論」づくりを目ざしております。

また、平沢研では三菱電機の研究所における実務経験を持つ平沢茂一教授が情報理論とその応用、情報管理、知識工学を中心に計算機に関連した研究を精力的にすすめています。

東研は62年4月に日本電気のソフトウェア研究所から早稲田に移られた東基術教授のもとでソフトウェア工学やオフィス情報システムの研究をすすめております。

森戸研ではスケジューリングや巡回セールスマン問題などの組合せ最適化とSLAMを中心とする離散系シミュレーションの研究をすすめています。

この中で狭義のOR分野の若手では、助手の片山直登君、博士課程の片岡靖詞君、久保幹雄君などを中心に修士や学部の学生が、巡回セールスマン問題をはじめとする各種組合せ問題、Karmarker 法等の新LP解法、道路網のネットワーク・デザイン、シミュレーションの結果の解析とモデル化、等の分野で研究を進めています。

OR部門外で当学会に属する学科教員には、生産管理・乱数発生等の研究している十代田三知男教授、生産管理・時系列解析等を専門とする片山博助教授がいます。この他にも、他学部や理工学部の他学科、あるいはシステム科学研究所等に相当数の学会員がおります。

各研究室ともスペースの問題に悩んでいます。たとえば、筆者の研究室(教員個室+院生のスペース)の場合、15坪のスペースの中に机・書籍等の外にパソコンが10台も

ひしめいており、満足に歩くことすらできないのが実状ですが、そうした環境の中で研究・教育に励んでおります。(森戸 晋)

久留米大学 商学部 商学科

久留米大学は福岡県南部の筑紫平野を流れる筑後川の近くに位置している。キャンパスは2つに分れ、本部と医学部関係の施設が旭町地区に、商学部(商学科、経済学科)、法学部、医学部進学課程さらに附設高・中学校が御井町地区にある。

本学は、昭和3年九州医学専門学校を設置して以来、医学系の単科大学として歩んできたが、25年に商学部商学科を、50年経済学科を、62年法学部を開設し総合大学として発展してきている。

商学部では、専任教員に非常勤講師を加えた総勢110名のスタッフにより、学部生約2,600名(1学年650名)の教育と指導に当たっている。本学部の特徴は、「全人教育」という基本理念にもとづき、20名程度を1クラスと

した少人数教育、充実した情報処理教育、約1カ月間の海外語学研修旅行による国際感覚を涵養する教育などである。学生の就職先もSEから銀行員、商社マンなど多彩である。

1. 商学部商学科のカリキュラム

商学系科目は、簿記・会計学、経営学、商学、情報処理の4つの科目群に分類され、それぞれの群にはコア科目として3年次必修科目の『演習Ⅰ』と4年次選択科目の『演習Ⅱ』が開講され、他の科目はコア科目の基礎または関連充実科目として位置づけられている。各群に分類された各年次配当の専門科目を表1に示す。

オペレーションズ・リサーチの講義は『計量経営学』で行なわれて、コンピュータによる実践教育も実施される。

この学科では、毎年定期的な「カリキュラム検討委員会」を開催し、学科の運営や教育方針などを議論している。

2. 情報処理教育

本学では、昭和50年商学部コンピュータ室にミニコンFACOM Mate II が導入され、学内教職員・学生のためのコンピュータ教育が開始された。その後、55年には全学の機関として久留米大学コンピュータセンターが設立され、汎用コンピュータ(FACOM M150F, 端末20

表1 各年次配当専門科目

年次	科目群			
	簿記・会計学	商学	経営学	情報処理
1	簿記原理Ⅰ*	商学総論 商品学	経済・経営教 学	情報処理Ⅰ 情報処理Ⅱ
2	簿記原理Ⅱ* 会計学総論 原価計算論	商業英語 消費者行動 論	経営学総論* 経営心理学	情報処理Ⅲ
3, 4	財務諸表論 経営分析論 管理会計論 会計監査論 税務会計論	貿易論 貿易商務論 交通論 海運論 証券市場論 中小企業論 広告論	経営史 マーケティング論 経営財務論 経営計画論 経営労務論 経営管理論 生産管理論 経営診断論 多国籍企業論 不動産経営論 計量経営学	情報処理論
		外国書講読*)	演習Ⅰ*)	演習Ⅱ

<注> *)は必修科目を、他は選択科目を表わす。

表2 情報処理関係科目一覧

科目	担当者	受講者数	開講時期
コンピュータ概論	上藤	223	1年通年
情報処理Ⅰ	原田 浅見 上藤	340	1年前期
情報処理Ⅱ	原田	173	1年後期
情報処理Ⅲ	上藤	18	2年通年
情報処理論	原田	10	3年通年